

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

かつて書店に勤めていた。売場に立てば、朝から晩まで「いらっしやいませ」「ありがとうございます」だ。ある時、昼休みを終えたバイトの女の子が、くすくす笑いながらもどつてきた。どうしたのかときくと、弁当箱のふたを開け「いただきます」と言うつもりが、手を合わせて「いらっしやいませ」と頭を下げたのだそうだ。

「ありがとうございます」もくせになる。サンキュー、メルシー、謝謝などにくらべて、アリガトウゴザイマは音節が多く、音の組み立てが複雑で発語しにくい。私は^{*}滑舌がよくないので、スムーズに言えるようになったのは、社会人になってしばらくしてからだ。

専業作家になって十九年。人との接触が会社員時代よりも大幅に減り、仕事上のやりとりも電話から電子メールに^①移行したため、「いつもお世話になり、ありがとうございます」と口に出す機会も少なくなった。^①それなのに(それだから?)今もって私は、常にこの言葉を発するスタンバイをしている。

買い物をした際、あるいはタクシーを下りる際、釣銭を受け取りながら、ごく自然に「ありがとうございます」と言ってしまう。受けたサービスへの謝礼だ。悪いことではないし、相手にきよとんとされるようなふるまいでもないけれど、無表情のまま釣銭を差し出す店員や運転手にあたると、「なんでお客だけが礼を言うんや」と

I してしまう。さすがに接客態度がよくない場合は、こちらもだまっているが。

商売というのはすばらしいシステムだ。インチキが介在せず、納得した上でのフェアな取引ならば、双方ともが喜ぶのだから。自由主義社会には競争があるゆえ、「うちで買っていただいてありがたい」と売り手は感謝しなくてはならないにしても、別に買い手が偉いわけではない。

電車や飛行機の中で、乗務員に対して理由もなく横柄な人がいる。こつけいだ。乗せてもらわなくては困るくせに、何をいばっているのだろう。旧国鉄の内部には「乗せてやる」という言い回しがあったそうで、それもひ

どい勘違いだと思っけれど。

「いや、お客は偉い。買う時は、だれもが王様になる」という考え方もあるだろう。しかし、それだと^②無用のストレスが社会に広がりそうで、賛同しかねる。王様やお姫様の気分にしてあげることを目的とした一部のサービス業を例外として。

子供のころ、駄菓子屋でキャラメルを買う時や、食堂で親が^②ゼイ算をしている時、「買ってやったぞ」とお客様面をしていた。高度経済成長期に育ったので、小学生でもいっばしの消費者として扱われた結果と言える。

^③そんな私が現在のように(転向)したのは、自分が社会に出て接客の現場にいたせいだろうが、それに先立つ経験もある。

中学生になるかならずかという夏休み。両親の郷里である高松で過ごし、源平合戦で有名な屋島に遊びに行った。三つ年下の弟と二人だったように思う。平日のことで山上に人は少なかった。蝉しぐれの遊歩道を散策した私は、ある^③コウ景に出くわす。

休憩所の店先に帽子をかぶったおじさんが立ち、中をのぞいていた。五十代ぐらいの人だったのではないが、連れはいなかった。うどんでも食べて店を出ようとしていたらしい。おじさんは財布を片手に、店の奥に向かって言った。「ごちそうさまあ」

意外な言葉だった。代金を払おうとしているのに店員の姿が見当たらない場合、とりあえず「すみませーん」と呼びかけるものだと思っていた。いや、それしか思いつかなかった。なのに、このおじさんは無料でもてなされたかのように「ごちそうさま」と言う。一瞬だけ違和感を覚えた後、私の内に変化が起きた。

自分のために料理を作ってくれたのだから、お客として代価を支払うとしても「ごちそうさま」と言うのが礼儀になっている。考えたこともなかったけれど、それはそうだと納得し、お客は偉いわけではない、と知ったのだ。

後日、食堂だかレストランだかで食事をして店を出る時に、私は小声できこちなく「ごちそうさま」と言ってみた。すると、照れくさい気もしたが、それだけのことで一歩大人に近づいたように感じた。以来、店側に不始末がないかぎり「ごちそうさま」を言い添えている。

屋島で見た何でもないひとコマが、私を少しだけ変えた。あのおじさんには、今も感謝している。先方は、すれ違っただけの少年に何かを教えたとは **Ⅱ** 思っていないだろうが、大人の言動が子供にあたえる影響は、かほど大きいのだ。平素から心しておかなくてはならない。

書店員をしていて、いろんな人と遭遇した。ブックカバーをつけただけで「どうもありがとう」と言ってくれる人ばかりではない。ささいな行き違いで **※2** 激昂し、アルバイトの大学生に「おれは客やぞ。社長に電話したるか！」と金切り声でさげふ小学生をなだめたこともある。根性の曲がったがまだな、と思いつつ、君はろくな大人と会ったことないんだね、とかわいそうになった。

(有栖川有栖「お客は偉くない」・出題にあたり、原文の形式を一部改めました。)

(注) ※1 滑舌がよくない……発音がうまくない。

※2 激昂……はげしく怒ること。

問1 線①②③と同じ漢字を使うものを次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|-----|---|-------------|---|-------------|
| ① | イ行 | ア | スイイを見守る。 | イ | イヘンを感じる。 |
| | | ウ | 図書イインになる。 | エ | 友のコウイにあまえる。 |
| ② | セイ算 | ア | ゆっくりセイヨウする。 | イ | 下書きをセイシヨする。 |
| | | ウ | 作品がカンセイする。 | エ | 砂糖をセイセイする。 |
| ③ | コウ景 | ア | コウセイな立場。 | イ | コウダイな土地。 |
| | | ウ | サイコウの悪い部屋。 | エ | コウラク地に出かける。 |

問2 線(1)「それなのに(それだから?)」とありますが、ここには筆者のどのような思いが表れていますか。もつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ありがとうございます」という言葉はいつまでたっても自分にとっては苦手な言葉であることはまちがいないから、いつでも注意しておきたいという思い。
- イ 「ありがとうございます」と言う機会が少なくなった分だけ、いつも意識しておかないと必要なときにうまく言えなくなってしまうのではないかという思い。
- ウ 「ありがとうございます」は自分にとっては商売に自信を持たせてくれた言葉なので、作家としてうまくいかななくてもいつでも店員はやれるという思い。
- エ 「ありがとうございます」には自分にしか言うことができない特別な言い方があるため、人にそれを伝えていくにはいつも口に出しておくべきだという思い。

問3 I にあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 苦笑 イ 立腹 ウ 反省 エ 反発

問4 〃線(2)「無用のストレスが社会に広がりそうで」とありますが、それはなぜですか。その理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 売る側が王様になろうとするとお金が必要になるので、一番お金を持っているお客をよるこぼせるためにがまんをかさねなければならなくなるから。
イ 買う側も売る側も王様になることで王国がたくさんできてしまつて国のまとまりがなくなり、結局はどちらかが国を支配するようなことになるから。
ウ 買う側が自分が一番大切にされていないければ気がすまなくなり、売る側はふゆかいな思いをもちながらお客に気をつかわなければならなくなるから。
エ 買う側の中に自分の思い通りにならなければ気に入らないという人が多く出てきて、だれが一番なのかをはつきりさせるために争うことになるから。

問5 〃線(3)「そんな私が現在のように〈転向〉した」とありますが、「転向」のきっかけとなった出来事が具体的に述べられている一段落を見つけ、最初の四字をぬき出して答えなさい。(句読点、記号等も字数に数えます。)

問6 〃線「不始末」の本文中での意味としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 店員の少なさ イ 味のまずさ ウ 時間のおそさ エ 対応の悪さ

問7 II にあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア たいして イ ゆめゆめ ウ ほとんど エ ますます

問8 次の一文を本文中に入れるとすると、どこがもっとも適切ですか。この一文を入れた時に、そのすぐあとに続く文の最初の四字をぬき出して答えなさい。(句読点、記号等も字数に数えます。)

この世の幸福の総和が増大するようにできている。

問9 この文章全体を通して筆者の言いたいことはどのようなことですか。もつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 作家になる前に本屋の店員として働いていたことにより言葉について考えることができるようになり、大人になった今でもその時の経験が生活の役に立っている。
- イ 多くの子供たちは自分が出会った大人のまねをしたがるものなので、大人のささいな言動によって良い方向にも悪い方向にも変化していつてしまうものなのである。
- ウ あいさつはそのやりかたやタイミングをはかることが難しいので、子供はもちろん大人であっても日ごろから練習を重ねておかなければうまく言うことはできない。
- エ 大人の何気なく言った言葉や行動したことが子供に影響を与えてしまうことがあるので、大人はふだんから常に見られているということを意識しなければならない。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「お母ちゃん、最近のお姉ちゃんを見て、ずっと思ってた」

ママは自分のふくらんだおなかをなでながらつづけた。

「友達も家族もみんなお姉ちゃんのことを好きで仲良しになりたいのに、お姉ちゃんだけが自分のこと好きじゃないみたいに見えるよ。自分と仲良くしようとしてないように見える」

私はママの向こう側にある鏡に映った自分に、視線をうつしてみた。最近、あまり見ないようにしていた自分の顔だ。久々にじっくりと見る自分だ。

「(1) あこがれや夢を持つのもいいけれど、その前に自分をかわいがつてあげなきゃいけないと思うよ」

にきびだらけでだんごつ鼻で、一重まぶたでうすい唇をした自分の顔が見える。その顔を見て、私の目から再びビュルルと涙が飛び出た。

「こんなのイヤだよお。自分となんか仲良くなんてなれないよお。私はお母ちゃんからじゃなくて、フランス人から生まれたかったよお」

私はそう言って (2) ママ……じゃなくてお母ちゃんを責めた。そしたら、私はもつと素敵だったに違いないのだ。

「ヨーロッパに生まれたかったよお」

私はそう言うと、お母ちゃんのひざにつつぷしてわんわん泣いた。そしたら、何の苦勞もなくあの写真集の世界で普通に暮らせていたのだ。

「そうだね。ごめんね。ごめんね、明子」

するとお母ちゃんは、私の頭をゆつくりとなでて謝った。

「お母ちゃんがフランス人だったら、きつともっと素敵だったかもしれないね」

お母ちゃんがあまりに素直に謝るから、⁽³⁾私はますます悲しくなつてうおんうおん泣いた。頭のとつぺんがお母ちゃんのおなかにあたつて、その向こう側で赤ちゃんが動いているのがわかった。

「お母ちゃんも、そう思ったことあるよ」

⁽⁴⁾おなかの中の赤ちゃんが、自分をきらつてけつてるように思えた。

「お母ちゃんももっと美人さんに生まれたかった、背が高く生まれたかった、頭のいい子に生まれたかったって、思ったことあるよ」

⁽⁵⁾だけど、赤ちゃんもお母ちゃんといっしょになつて、私の頭をよしよしとなでてくれるようにも感じた。

「お母ちゃんも昔は自分と仲良しになれなかったの。自分のことキライだったことあるんだよ」

わたしはぐずぐずと泣きながら、この子はどうなんだろうと思った。

「でも、あるとき気づいたんだよ」

この家に生まれてきたって思ってるのかな、と思った。

「家族も友達もみんな自分のことが好きで仲良くしてくれてるのに、自分だけが自分と仲良しになれないのはおかしいなつて」

でも、生まれてきたくなかつたら、きつとおなかにいることをやめてるかもしれない。

「こんなにみんなに好かれてるのに、自分が自分と仲良くなれないなんて間違つてるなつて」

生まれてきたいから、おなかの中でじつと生まれるのを待っているのかもしれない ⁽⁶⁾……。

「だから、明子も気づかなきゃ」

私はお母ちゃんの言葉を聞きながら、そんなことを考えた。生まれてくることを、そんな風に考えたのは初めてだった。

「自分が間違つてるつて、気づいてあげなきゃ、自分がかわいそうだよ」

私はゆつくりと身体を起こして、お母ちゃんの顔を見た。

「明子はかわいそうな人になりたいの？」

⁽⁷⁾私はゆつくりと首を横にふつた。

「じゃあ、がんばつて、自分のこと好きになろう」

私は再び、鏡に映る自分の顔を見た。

「大丈夫。自分のいいところをたくさん見つけるようにしたら、きつと自分と仲良くなれる。それは今の明子にはとてもむずかしいことに思うかもしれないけれど、今のままだつて、明子のことを好きな人がたくさんいるのは知ってるでしょ？」

むくれた顔が、こっちを見ている。

「だから、がんばろう」

私は うなずいた。

「明日は、^{*1}バゲットでもいい？」

だまつてコクリとうなずく。

「じゃあ、夕飯のつづき食べよ。待つてるからね」

お母ちゃんはそう言うと、よっこいしょという感じで立ち上がった。そして、部屋を出て行くときにふと立ち止まつて言った。

「あんまり自分のことが好きになると、お母ちゃんみたいに自分の分身がたくさん欲しくなつて、外国に行くところじゃなくなつちやうからはどほどがいいかもしれないけれどね」

ちらつと見上げると、お母ちゃんは私を見て、ペロツと舌をだしておどけたように笑つた。私もつられて、ちよつ

とだけ笑った。

そしてふすまが閉められると、私は勇気をだしてまた自分の顔を見た。

いかにも田舎者^{いなか}って感じの自分の顔をまじまじと見る。

いとこのあみちゃんの友達の家にお呼ばれして、おしゃれな子たちを見たとき、生まれるところからやりなおしたいと思った。私がいつか大人になって、東京に来て、今からおしゃれをしているこの子たちに追いつくことは絶対にできないだろうと思った。どんなにがんばっても秋田県出身の田舎者でしか生きられないのだと。

それまでもテレビや雑誌で見えていたはずだった。あみちゃんと会えばいつだっておしゃれをしていた。だけど、なんとも思わなかった。気にもならなかった。

それが、あみちゃんの友達と会ったのをきっかけに、突然^{突然}自分と自分の周囲が気になりだした。そして、そのすべてをイヤだと思った。秋田の下田舎で、やかましいばかりの大家族の家に住んで、おしゃれとはほど遠い友達に囲まれているこんな顔した自分のすべてを、イヤだと思った。

それ以来、自分の顔はあまり見ないようにした。⁽⁸⁾寒くても、スカートの下にジャージをはくのはやめにした。だけど、それ以外は変えようがなかった。

だけど写真集を見つけたとき、外国ならば東京出身も秋田出身も関係ないのだと思いついた。しかも、その写真集の中ではボロボロの棚^棚をアンティークと呼んで大事にしている、でっぷりと太ったおばあちゃんがかわいいとされていて、人と違うことは個性的で素敵なこととされていた。

だから私でも、この世界でなら素敵になれると思った。イヤじゃなくなると思った。

だけど中一の私にはどうにもならない現実があつて、だからせめて今できることをしようと思った。私でも手に入れられるアイテムをそろえて、できる範囲で環境^{かんげい}を整えて、今を耐え忍ぼう^{しのぶ}と思った。

でも、どこに行っても私は私でしかないのだ。いつかここから逃げることはできても、自分からは逃げられな

い。⁽⁹⁾ 素敵な世界で生きることと、私自身が素敵になることとは違うということ。

お母ちゃんはやさしくそのことを教えてくれた。ずいぶんひどいことを言ったのに、ちつとも怒らなかつた。

私はいいお母ちゃんを持った。

それだけは、間違つてない。

素敵な事実だ。

今はまだ、こんな自分や自分のいる世界を好きになれる日が来るとは思えないけれど……。

私は立ち上がつて、部屋を出た。たくさん泣いたので、ひどくおなかがすいていた。

(草野たき『ランチタイム』)

(注) ※1 バゲット……フランスの細長いパン。

問1 線(1)「あこがれや夢」とありますが、「私」があこがれ夢見ていることがらについてくわしく述べている一段落を見つけ、最初の四字をぬき出して答えなさい。(句読点、記号等も字数に数えます。)

問2 ー線(2)「ママ……じゃなくてお母ちゃん」とありますが、なぜこのように言いかえたのですか。その理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 今まで夢の世界に生きていたことがわかって現実の世界へ急に引きもどされたから。
 イ 自分がフランス人ではなく日本人であることを鏡に映った顔で思い知らされたから。
 ウ 「ママ」と呼べるのは外国人だけで日本人の母親にはふさわしくないと思ったから。
 エ 母親に対して「ママ」とは呼んだことがないことに気づいてはるかしくなったから。

問3 ー線(3)「私はますます悲しくなつて」とありますが、それはなぜですか。その理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア しかられると思つていたのに同意されてひょうしぬけしてしまつたから。
 イ 母親にまで自分の顔をだめなものとしてみとめられたように感じたから。
 ウ めちゃくちゃなことを言つているのにきちんと受け止めてくれないから。
 エ 本心かくしてなんとかなだめようとしているのが見え見えであるから。

問4 ー線(4)と(5)とでは同じ出来事に対する「私」の受け止め方がちがいます。このときの「私」の気持ちとして、もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の弱気な面をいましめようとする一方でその弱い自分を支えてほしいと思つている。
 イ 自分の望みがかなわないのはつらいが赤ちゃんには理想をかなえてほしいと思つている。
 ウ 赤ちゃんにいやな思いをさせているのに自分は母親にあまえさせてほしいと思つている。
 エ 母親を困らせている自分のことを批判しつつもやさしく包みこんでほしいと思つている。

問5 ー線(6)「……」には「私」のどのような思いがこめられていますか。もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア この赤ちゃんのためにも自分がしつかりしなければいけない。
 イ まるで自分がまちがっていることを教えてくれているようだ。
 ウ そして自分もそのように思つて生まれてきたのかもしれない。
 エ こんなにもがまん強く母のおなかの中でがんばっているのか。

問6 ー線(7)「私はゆっくりと首を横にふつた」とありますが、このときの「私」の気持ちとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 母が自分への問いかけの中で伝えようとしている思いをしつかりと受け止めたことをきちんと示したい。
 イ 母の言うことはもっともであつてもまもなく生まれてくる赤ちゃんの手本と言えるお姉ちゃんになりたい。
 ウ 本当はとても納得できそうにないことではあるけれども自分の心の中のまよいを母には知られたくない。
 エ 今はとても答える気にはなれないのだけれども母に対して申しわけないので答えないわけにはいかない。

問7 にあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア しつかり イ すばやく ウ しぶしぶ エ くりがえし

- 問8 ー線(8)「寒くても、スカートの下にジャージをはくのはやめました」とありますが、それはなぜですか。その理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 「あみちゃん」には負けたくないと思ったから。
 - イ 東京ではそんなかっこをしないとと思ったから。
 - ウ 寒さにたえることからはじめようと思ったから。
 - エ 自分の外見に対し注意をはらおうと思ったから。

- 問9 ー線(9)「素敵な世界で生きることと、私自身が素敵になることとは違う」とありますが、このときの「私」の気持ちとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 自分を取り巻く世界が理想的であれば自分も素敵になれると思っていたが、どのような世界であっても自分自身を好きだと思えるように努力して生きていかなければ素敵になんてなれない。
 - イ 自分が理想とする个性的な人たちが集まる世界にたとえ行けるようになったとしても、今のままの自分であるならばけっしてまわりの人からは素敵になったとは思われないにちがいない。
 - ウ これまでの自分は素敵な世界に逃げることはばかり考えていたけれど、どこへ逃げるかではなくてこれから自分自身が住む場所が素敵な世界となるように努力していかなければならない。
 - エ 何が素敵であるかということは人によってとらえ方がちがうので、他人の言葉やかっこなどに振り回されずに本当にまわりの人から素敵な人だと思われるように自分をみがいていこう。

受験番号	
氏名	

一

問1 ① ② ③

問2 問3

問4

問5

問6 問7

問8

問9

一の得点	
------	--

二

問1

問2 問3

問4 問5

問6 問7

問8

問9

二の得点	
------	--

総得点	
-----	--